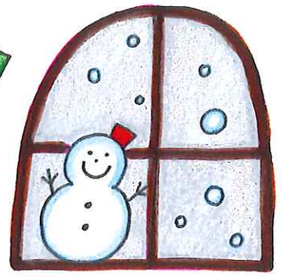
第45号

絵本の紹介



令和元年12月13日(金) 茨木みのり幼稚園

もうすぐ冬休み!!

令和初めてのクリスマス、お正月、なんだか気持ちも晴々しいですね。冬休みは家族みんなで集まって時間を過ごすことが増えるのではないでしょうか。そこで今回は冬休みに『家族みんなで読むと楽しい絵本』をテーマに、園長先生とフリー教諭のオススメ絵本を紹介します。

「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」
長谷川 義史/作 〈BL出版〉

「5さいのぼく」のおとうさんのおとうさんはおじいちゃん。「ねえ、おじいちゃんのおとうさんはどんなひと?」そんな質問をしながら『ひいおじいちゃん』に会いに行きます。さて『ひいひいひい……おじいちゃん』にまでタイムスリップするのかな?

この本をきっかけに「おかあさんのおかあさんは?」などなど家族やご先祖様の会話が広がりそうですね。ぜひ楽しんでみて下さい♡ (森)

「心ってどこにあるのでしょう?」
こんのひとみ/作〈金の星社〉

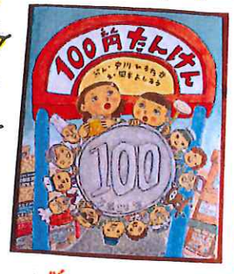
子どもたちにも感じて欲しいいろいろな感情。あたたかい気持ち、苦しい気持ち…。感じる心はどこにあると思いますか? 家族で話してみては? 子どもは大人が思いもしないところで感じているかもしれませんね。 (辻田)

「オオカミのひみつ」
きむら ゆういち/作 〈偕成社〉

だれからも怖れられるオオカミにも、にがてなものがあったんです。それがオオカミのヒミツ!! 田島 征三さんの絵がほんとに大好きなんです。ぜひ、お父さんに声色をつかいわけて よんでほしい一冊です。(落合)

「ねえ、どれがいい?」
ジョン・バーニンガム/作 〈評論社〉

「ねえ どれがいい?」と次々にとんでもない選択が出されます。家族で子どもたちとたくさん笑顔あふれる会話を楽しめる絵本です。あったかいタッチの絵と七色に子どもたちと楽しみある時間をすごしてみたいものがですね。 (久保)



「100えん たんけん」
中川 ひろたか/作 〈くもん出版〉

100円を持って商店街を探険だ!! お肉屋さん、お魚屋さん、ケーキ屋さんにお寿司屋さん。100円で何をどれだけ買えるのだろう。色々なものを同じ100円という単位で見ることで子どもたちにもとても分かりやすく考えられる絵本になっています。お正月にお年玉をもらった時などにお金について考えるきっかけになればと思います。 (佐野)

「ちょっとだけ」
瀧村 有子/作 〈福音館書店〉

なっちゃんのおうちに赤ちゃんがやってきて、なっちゃんはお姉ちゃんになりました。本当はお母さんに甘えたいけど、なっちゃんはお姉ちゃんになったからも"ちょっとだけ"ひとりで頑張ってみます。その姿がとっても可愛くて切なくて最後まで読むと子どもたちをギュッと抱きしめたくなる絵本です♡ (山口)

今年も残り一カ月を切りました!

「十二支のはじまり」 谷 真介/作 〈佼成出版社〉

来年はねずみ年! 十二支のトップバッターです!! 十二支を子どもに伝える良い機会だと思います。十二支の由来を楽しみながら知ることができます。絵本を読んだあとは、家族の干支についても会話を広げてみてください (栃本)

おかあさんにオススメ

「わたしのわごむはわたさない」
ヨシタケ シンスケ/作 〈PHP研究所〉

わたしだけの宝物。それがわごむ。わたしだけの物ってワクワクします。わごむ1つがとても素敵な想像力豊かな世界へ連れて行ってくれます。皆さんのお子さんの宝物は何でしょうか。 (西山)

「こんがらがっち どっちにすすむ?の本」
ユーフラテス/作 〈小学館〉

レオとモグラがこんがらがってできた生き物「いぐら」。旅をしたり、ご飯を食べたり、道に迷ったり…。この絵本は、指で道をたどって読み進める絵本です。道は2つに分かれたり、戻ったり、ページの裏側に移ったり、家族で会話を楽しみながら、ゴールに向かって読み進めると間違いなし! 是非、家族みんなで集まって読んでください。 (栃本)

「しろくまのそだてかた」 うつみ のりこ/作 〈飛鳥新社〉

私をすすめられてこの本を知りました。はじめてページを開いた時、何だか熱い思いが胸にこみあげてきました。我が子が愛おしくなるこの絵本。作者のうつみさんの言葉を皆さんに届けたい。『この絵本は上手に言葉にできない子どもたちの気持ちをイメージしながら、一ページ、一ページにメッセージを込めて書きました。思い出してください、あなたが子どもだったころのこと。おかあさんになった瞬間の気持ち』どうですか? 是非、しろくまを我が子の名前におきかえて、オリジナルの絵本としてお母さんの心の支えの1つとなると嬉しいです。☺

(園長 前川)